



資料9

府食第159号

平成31年3月20日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

2019年度食品健康影響評価技術研究追加公募課題（案）について

このことについて、平成31年3月14日に開催した平成30年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第8回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

2019年度

食品健康影響評価技術研究追加公募課題（案）
について

平成31年3月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

2019年度食品健康影響評価技術研究の追加公募課題（案）

公募課題	概要
<p>ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究</p>	<p>毎年のノロウイルス感染症の流行時には大規模食中毒事例など健康被害が報告されており、食品衛生の観点からは、ノロウイルス感染症の全体像（ヒト、食品及び環境）及び全体に占める食品が寄与する割合を把握し、その低減を図ることが重要である。また、ノロウイルスによる食中毒発生時の原因として、顕性、不顕性感染の状態にある調理従事者由来とされる事例が多く、大量調理施設衛生管理マニュアルの改訂などの施策が講じられてきたが、現在でも不顕性感染のリスクの状況や有効な対策のあり方については不明な点が多い。</p> <p>そのため、①ノロウイルス感染症の全体像の把握、②ノロウイルス感染症全罹患患者数に対する食品由来の者の割合の検討、③大量調理施設における調理従事者の不顕性感染の状況と対策について研究を実施する。</p>
<p>農薬の使用により生成される代謝物の評価方法に関する研究</p>	<p>農薬が農作物、飼料作物等に使用された際に生じる、農作物、家畜等中の代謝物について、毒性評価及びリスク評価に必要な試験及びその評価の考え方を提案するための研究を実施する。</p> <p>具体的には、海外の評価方法を調査するとともに、ADI（一日摂取許容量）、ARfD（急性参照用量）及び暴露評価対象物質の検討対象となる代謝物の条件や、評価に必要な試験項目について提案することを目的とする。</p>

(参考)

**食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題
(平成31年度)(平成30年9月4日 食品安全委員会決定)(抜粋)**

1 危害要因・ばく露実態の評価に必要な科学的知見の集積

1 研究事業

(4) 食品媒介疾患の原因となる微生物等病原体に関する研究

近年患者数が多く公衆衛生上の重要性が増しているノロウイルスについて、ヒトへの感染経路における食品(カキを中心とした二枚貝とその他の食品別)の寄与率やヒトの症状の有無による食品への汚染の程度を明らかにする研究を実施する。

3 新たなリスク評価方法等の確立

1 研究事業

(3) 農薬の使用で生成される代謝物の評価方法に関する研究

農薬が農作物、飼料作物等に使用された際に生じる、農作物、家畜等中の代謝物について、毒性評価及びリスク評価に必要な試験及びその評価の考え方を提案するための研究を実施する。